



公益社団法人日本地すべり学会 東日本大震災以降の斜面災害多発への対応

- 2011年9月台風12号災害(紀伊半島)
 - 2012年7月九州北部豪雨災害(阿蘇)
 - 2013年10月伊豆大島土石流災害
 - 2014年7月南木曾土石流災害
 - 2014年8月広島土石流災害
 - 2015年9月関東・東北豪雨災害(鬼怒川流域)
 - 2016年4月熊本地震災害
 - 2017年7月九州北部豪雨災害(福岡県・大分県)
 - 2018年4月大分県中津市耶馬溪斜面災害
- 災害発生時の対応見直し
 - ・ 学会調査団の派遣(行政との連携協力強化)
 - ・ 解説委員の配置(報道・一般向けの解説充実)
 - 防災を担う人材確保(中長期的課題)
 - ・ 特別研究員の雇用(研究費の獲得、若手への防災技術の継承)
 - 国際競争力の確保
 - ・ SATREPS地球規模課題対応国際科学技術協力プログラムへの学会員の参加(地すべり早期警戒)
 - ・ ベトナム交通科学技術研究所とのMOU締結と民間レベルでの技術交流
 - ・ 第5回World Landslide Forumの京都開催への協力



日本地すべり学会の斜面災害への取り組み

日田市小野地区(提供:林野庁)



2017年7月九州北部豪雨災害

2017年7月16日記者会見資料(日田市役所)

福岡県・大分県の要請により学会調査団を派遣し、地元及び記者説明実施して、線状降水帯による局地的大雨による表層崩壊と大規模な崩壊発生を説明。



2018年4月中津市耶馬溪斜面災害

2018年4月29日記者会見資料(中津市耶馬溪支所)

大分県の要請による日本地すべり学会・林野庁合同調査団を派遣し、市・記者・住民説明実施して、地下水が主たる要因であることを発表した。